

## 最近の振り返り



### 山本浩司

就実大学薬学部薬学科  
[703-8516] 岡山市中区西川原1-6-1  
講師, 博士(薬学).  
専門は有機化学.  
yamakou@shujitsu.ac.jp  
<https://researchmap.jp/yamakouji>

このような執筆の機会を与えていただき感謝いたします。よい機会なので、「仕事」と「私事」について振り返りたいと思います。

専門分野は有機化学です。設計して作った分子の性質に興味をもって研究しています。私が研究者を志した動機はいろいろありますが、心に残っているのは、学生時代に雑誌会で取り上げたメビウス芳香族分子に関する論文でした (R. Herges, *et al.*, *Nature*, **426**, 819 (2003) や D. Kim and A. Osuka, *et al.*, *Angew. Chem. Int. Ed.*, **47**, 681 (2008) など)。この論文のように、自分で作った分子で新しい化学(科学)の扉を開けられたら最高だろうな、というありきたりな動機です。このような大それた目標(夢?)はなかなか達成できないからこそ、心の中にくすぶる火種となり、研究を続けられている気がします。学位を2013年3月に取得し、分子科学研究所、東京工業大学、群馬大学と異動し、研究分野を変えながら、研究と教育を続けてきました。

さて、2020年2月、群馬大学に助教として着任して2年ほどが過ぎた頃から、コロナウイルスで世の中が騒がしくなり始めました。キャンパスがあった桐生市は地方都市ということもあり、最初は別世界の出来事ととらえていましたが、卒業研究発表会が中止となり、これまでとは違う雰囲気が桐生にも漂っていました。そして、4月から、例年とはまったく異なる新年度が始まりました。授業や会議はオンライン、研究室では学生が登校できず、とりあえずオンラインで座学というこれまでにない状況です。急激なオンライン化への対応にあたふたするうちに、2020年6月に息子が生まれました。出産に立ち会えたことは本当にうれしく思いました。ちょうど緊急事態宣言の名残で、研究室学生が早く帰宅し、私の帰宅時刻も早くなり、家族で過ごす時間が増えました。その平穏な日々もつかの間、2020年9月あたりから、研究室活動も通常運転の6~7割になり、さらに育児も重なり、怒涛の日々が始まりました。私たち夫婦は二人とも関東出身ではないため、周りに手助けをお願いできる人がいません。夜泣

きが始まったのもこの頃でした。家のことと大学のこととで忙殺され、2020年度後半の記憶があまりありません。2021年度は、慣れてきたのか、少しマシになりました。コロナ禍は世間を振り回し続けていますが、コロナ禍がもたらした種々のオンライン化にはとても感謝しています。とくに、オンラインでの学会参加の利便性は衝撃的でした。自宅から最新の研究動向に触れ、発信できることに感動しました。対面でないと得られない付き合いはありますが、子育て世代にはオンラインでの学会参加は是非残してほしい選択肢です。また、2020年度、2021年度と出張がなかったことは本当にありがたかったです。

2022年4月から岡山県にある就実大学薬学部にお世話になっております。最近の悩みは、「ワークライフバランス」と「研究者としての評価」の両立の難しさです。大学教員という職業の良いところの一つは時間の融通が効くことです。また、研究室を独立して運営しており、裁量権は大きく、ワークライフバランスはとりやすい環境にあります。しかし、研究者として最も大事なものは研究業績です。研究業績を積むには、かなりの時間を研究に捧げる必要があります。これらを高いレベルで両立させるにはどうしたらよいのか、日々思案しています。最近、子どもと遊んでいるときに、研究のことを考えていたら、上の空であることを感じとるようで、「あっあ!(集中して!)」と怒られました。難しいですね。

最近、感銘を受けた話を紹介して、筆を置きたいと思います。とある対談で、将棋の羽生善治先生が「豊かな人生とは?」という問いに対し、「後悔が沢山あること」と答えていらっしゃいました。後悔、つまり、沢山の選択肢を選ぶことができたという状況は恵まれているという趣旨でした。筆者は日々の生活、研究、異動にともなう決断で後悔が付きませんが、少し救われた思いでした。

以上、このとりとめの話を読者の方の充実した「仕事」および「私事」の参考になれば幸いです。